五木東小

第10号

学校便り
文責
生田　文明

ほかほか言葉で、優しさ・感謝・思いやりの花を咲かせよう

六月は、「いじめを許さない学校・学級づくり」の取組を全校で頑張ってきました。その学習のまとめとして集会を二十七日に行いました。まず、今月の歌「友だちになった日」を全員で合唱、美しいハーモニーの中、和やかな雰囲気でスタートしました。続いて、いじめアンケートから子どもたちが課題を発表し、「いじめ根絶宣言文」を全員で読み上げました。

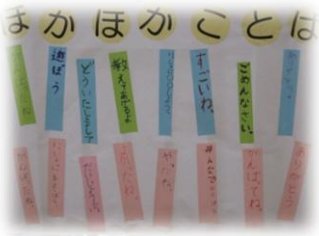
今回の集会では、「言われてうれしい気持ちになる言葉（ほかほか言葉）」について、班ごとに考えてもらいました。

ほかほか言葉を考える時の子どもたちの表情は柔らかく、教室は、笑顔でいっぱいになりました。

「ありがとう」「だいじょうぶ」「すごいね」など、見つけたほかほか言葉を一人一人短冊カードに書いていきました。みんなで考えたほかほか言葉であふれる、五木東小学校となるようにしていきましょう。

なお、ほかほか言葉は、二階のホールに掲示しています。来校時にぜひ、ご覧ください。

学校を、家庭を、地域を、ほかほか言葉でいっぱいにしましょう。



地域の歴史を学ぼう

十二日、二十六日の二回に分けて、宮園在住の黒木英明さんより、「五木村と西南戦争」という演題で、五、六年生児童へ講話をいただきました。

「五木村で官軍と薩軍との戦いがありましたが、五木村にとっては、とても迷惑な話でした。戦いがあった五月は、ちょうど茶摘みの時期で、村人たちは、とても困ったそうです。当時は、お茶を売ったお金で塩を買っていたのですが、この戦いで、塩が買えませんでした。塩は、五木ではなくてはならないものでした。・・・・・・・・・・・・。」

「戦争は、兵隊さんでない一般の人も傷つけます。西南戦争によって、五木村は大変でした。戦争は、二度としてはいけません。」黒木さんは、子どもたちにこのことを力強く話していただきました。子どもたちは、黒木さんの話を喰い入るように聞き入っていました。自分たちが住んでいる五木村で、歴史上重要な戦争があったことを知り、とても驚いていました。

また、五木村にどのようにして産業が興ったのかということも学ぶことができました。

今回の学習をとおして、ふるさと五木村についてさらに愛着を持つことができたようです。

子どもたちの学習・生活の様子は…

二十六日の村教育委員による学校訪問では、各学級の授業を参観していただきました。授業を参観された感想として、「子どもが生き生きと活動している。」「授業時の教師の表情がとても豊かでよい。」とのお褒めの言葉をいただきました。また、本年度の学校経営のスローガン「児童一人一人が生き生きと輝き、花いっぱい、あせいっぱい、知恵いっぱい、笑顔いっぱいの東小」について、その実現のための方策について具体的に説明させていただきました。

委員さんからは、「今年入ったタブレットＰＣの活用を図り、さらなる学力の向上をめざすこと。」「昨年度に引き続き食育の推進を図ること。」「視力の低下が気になるので、家庭と連携した取組を推進すること。」などのご意見をいただきました。

秋の二回目訪問の際には、少しでも多くの成果を語れるように、毎時間の授業を大切にしながら、教職員一丸となって日々の教育活動を充実させていきたいと思います。